

ソフト・ハードともに 充実したまちづくりを

横江淳一町長インタビュー

名古屋市に隣接し、JR・近鉄で名古屋駅まで約10分、車なら約20分と交通アクセスに恵まれた愛知県蟹江町。町の中を6本の河川が流れ、日本百名湯に選ばれた尾張温泉が湧き出るなど「水郷のまち」としても知られている。豊富な自然と立地の良さを生かしたまちづくりの方向性や、観光事業などについて横江淳一町長に話を聞いた。

(聞き手は名古屋支局「平良修」)

—蟹江町の強みを教えてください。

蟹江町にはユネスコ無形文化遺産の須成祭など、磨けば光る原石がある。これを地方創生や総合戦略に取り組み中で、職員も僕も一緒に磨いていく。

蟹江町制130周年



—今後のまちづくりについて、ビジョンなどを伺いたい。

第4次総合計画の核になる「協働のまちづくり」を、町民の皆さんと一緒に進めている。土地区画整理事業も着実に進んできた。今後も自然に配慮しながら人が住み

やすい環境をつくる必要がある。僕は「10K」という、蟹江町の頭文字であるKを元に、中心に協働のKを置き、周囲にさまざま

なKが回っている状態を理想にしている。それは観光、環境、改革、健康、教育の5Kから始まり、国際、共生、子育て、高齢者、郷土を加えて10K。さまざまな意見を吸い上げながらまちづくりの車輪を回してまちを活性化していく。

—現在、策定を進めている2021〜30年までの第5次総合計画の方針は。

第4次総合計画のテーマは「キラッとかにえ 明るい未来が見えるまち」だった。蟹江町には大きなポテンシャルがある。住民に自

10年間で産業誘致策など推進

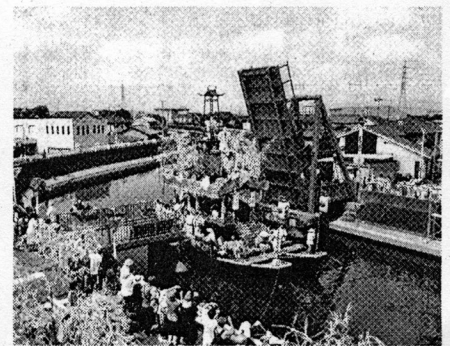
も必要になってくる。どのように進めていくのかを、町民と一緒に進んでいく。10年後の町の姿を見据えながら考えたい。

—蟹江町が目指す将来像の中に産業誘致拠点としての西尾張中央道沿道地区開発を挙げている。ハード面の事業として工業団地をつくらうと思うと、便利工場に限られてくる。国道1号と西尾張中央道の近辺や東名阪自動車道の蟹江インターチェンジ周辺など、候補地の中から特化して開発していく必要がある。この辺りの

農業振興地域内農用地区域は規制を外すのが難しいが、市街化調整区域を探し、そこで工場ができるような開発をしていきたい。新たな産業誘致策や人口増加策として、近鉄富吉駅南側15分圏に広がる市街化調整区域の市街化区域編入について都市計画マスタープランの中で検討している。細かい調整しながら前に進めていくつもりだ。

—観光拠点形成と地域活性化のために、観光資源をどう生かしていくのか。

蟹江町の良さは川だ。60年前に



須成祭(提供:蟹江町役場)

は伊勢湾台風で大きな災害が発生したが、川の恵みで水運が栄え、町も栄えた。それを観光に結び付けられないかと考えている。まちのマスケットキャプターである「かに丸くん」なども活用し、蟹江の良いところをもう一度見てもらえるよう努める。まちの潜在能力として、温泉をアピールするために、足湯のある蟹江町多世代交流施設「泉人(せんと)」も造った。観光資源を発掘しながら情報発信のためのハード整備も進めていければよいと考えている。商工会と観光協会を強化し、まちの歴史・文化・可能性を今後もアピールしていく。

—建設会社を含む地元業者にメッセージを。

地域の活性化のために地元業者者でできるだけ活用したいと思っている。一方、これからは「われわれはこんなことができる」というフレキシブルな業者者に仕事を持っていくべきだという思いもある。業者の方には、地元とコンセンサスを得ながら仕事を進めることや、「こんなことができる」という提案を期待している。フレキシブルな業者になっていただき、共に良いまちをつくりたい。